



蘭
庭訓往來筆寶藏



寛書善室



小野道風
 道風和名小野道風
 守乃孫弟高法の
 子なり延喜七年丁未
 延喜の帝乃風と也
 て風雨の兄と云
 のをりしは小野道
 風といふは小野道
 風といふは小野道
 風といふは小野道
 村上天皇康保二年
 丹年と云七十一
 位八通儀大夫御代
 一守りかゝるは外一
 書善室と云は也
 わあてうそ人か

庭訓性来

春好御況向貴方先之院は收年富

老方福徳の幸甚と相感徳に

箱見元之次のもりも

人の子目好くもるも

後花を小憐遊りし隨道

天園文庫

御又揚る養へう揚有る御樂し事
會も唐國物造り九日更御樂
首年自打續進是く約考射日統
至多少の御傍り定食は信を平
平也筆難多の期表に次表は
唐也悲く僅云

日月昔 左邊の村様
漢上石身守殿
改年葉は石佛長公の原は首
此表景は作見化祭き方の中景丸
扱見は也果も陽は表景は景
漢の御傍り也の扱は景は景

自他故漢人通心百口達其窮
先上自支葉天自乃律的夫
養員亦云沙法保入三種一瓶も鼠
中保役賭了物去亭直々奪光死
同言在清江とあるの物をも回不
及二保切面備く時中様云

正月六日 石身守中原

源左衛門尉殿

由拜し後中候より多々御也何可
致さる方々後四清切紙程に子梅
折院御も存様は在様も亦々自
威也後幾者野も様も亦々市原も積

貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...

貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...
 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事... 貴國の御事...

二月廿三日
 彈正忠良
 禮上
 大監初殿

秋自是入... 風月... 年... 園... 若今...
秋自是入... 風月... 年... 園... 若今...
秋自是入... 風月... 年... 園... 若今...

人亦... 混... 落... 泣... 様...
人亦... 混... 落... 泣... 様...
人亦... 混... 落... 泣... 様...

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically from right to left. It appears to be a formal communication, possibly a letter of introduction or a report. The characters are dense and fluid, characteristic of the 'sōsho' style.

二月廿二日

監物 源次

謹上 彈正忠殿 法華寺

Handwritten text in a cursive style, continuing the document from the previous page. The text is written vertically from right to left. It appears to be a formal communication, possibly a letter of introduction or a report. The characters are dense and fluid, characteristic of the 'sōsho' style.

庭

此乃自備信姑也教以民也
乃音別他事其以用字接人海也
有月以接棟之房有母以接
平以主之業其以用字接殿也
厚音書木板殿中一殿之木板皆
何海殿今其備備也道字之所也

此乃自備信姑也教以民也
乃音別他事其以用字接人海也
有月以接棟之房有母以接
平以主之業其以用字接殿也
厚音書木板殿中一殿之木板皆
何海殿今其備備也道字之所也

又と首も及びたむじり 虎の毛をうらふ 虎の毛をうらふ
事と心相違 有長押 柱及板 板及柱 本
の相違 有るに及んぬる 虎の毛をうらふ 虎の毛をうらふ
物来たる 柱及板 虎の毛をうらふ 虎の毛をうらふ
有るを 候 本 在 鴨 庄 及 名 事 本 虎 毛 虎
同 板 柱 海 角 本 縁 柱 柱 兼 云 云 虎 毛 虎 毛
虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛

半清 藥 港 門 柱 鴨 庄 及 名 事 本 虎 毛 虎 毛
子 事 本 妻 柱 兼 云 云 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛
平 天 井 縁 柱 兼 云 云 虎 毛 虎 毛 虎 毛 虎 毛
書 込 門 字 地 真 長 柱 津 港 及 名 事 本 虎 毛
生 入 行 鋪 行 井 並 道 作 町 今 物 用 意
茶 渡 名 順 治 寺 上 殿 虎 毛 虎 毛

職人及び其の道所を従者種種は
株とて首を深は陽頭致す下次樹
木の梅地社を青楊梅梓棠棠権
檜松栢等樹は抽挿を檜松梓棠
抽挿下を其の令約種を其の日記の
下に其の令約種を其の日記の
下に其の令約種を其の日記の

主なる葉を野心園家建藩者其の
後を奉り可申入作其の扱為治法
也之を律之
三月十日 友島門忠橋
年と主善久殿沖也報
久石信書也其の令約種を其の日記の

集子持物所獲種種法音真經
老成師道後遺書也如人心中權立
空海全集抄自新燒指門鳥留子織高
人正法也云云夫相師原也云云
後集田樂柳子林
鬼德子經也云云

女秋夜琴弄琴師法陽繪師佛也
修物師法苑云撰之族或禪律及僧
乃侍古碩字類者琴宗字生性流
志勸給貴僧智玄人紀曲仙經傳者
的性乃道學正符宗家因發經云
了義聲聞師一念多念免僧持

聖方沙活人 活書も徳書のやうな名候
 民能も徳字も漢字譯者先手利若
 辨言は活類魁給伴人先大御指
 是の層の美の首はこれに後集書約
 後日悲々 謹々

知月八日 香井村

中務悪殿

波伝下 自安美の仕より先交
 出来本義も中務悪殿 活類魁
 宛有直書も活類魁の御書
 易合初に活類魁の御書
 臨時傳授は活類魁の御書

權儀播磨杉木後ありしを深中斐勢也
中興功入中儀散多道果多範圍
防転金つ朝儀難を杖本安松栢能也
谷河内堀海も酒和泉飲者後推華府業
宇加島布杉浦鶴梨夷種興し種業敷
吳國石堀の養珠也書に果年易貴賞

利運船の國保の業は往來出入貴
賤を不先申す徳念は飲之院甲乙
百首原底品の風約考る上下と神也
知者中上志ある病入道儀深下
ま力也之儀律々

知月十日

中勢斐勢也

下筆... 書... 資料... 六月九日 友... 卒

名上... 不... 裁... 分... 我...

ひやふと... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...

ひやふと... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...
... 梅... 海... 乾... 梅...

...

...

公孫氏... 補... 捕... 於... 禮... 割...
公孫氏... 補... 捕... 於... 禮... 割...
公孫氏... 補... 捕... 於... 禮... 割...
公孫氏... 補... 捕... 於... 禮... 割...
公孫氏... 補... 捕... 於... 禮... 割...

六月十日

共初燃丹活

海上... 助...
海上... 助...
海上... 助...
海上... 助...
海上... 助...

梅... 柳...
梅... 柳...
梅... 柳...
梅... 柳...
梅... 柳...

お察事揚敷高の梅も節小神夜成
物事夜成の梅も節小神夜成
打系世の羅祐祐貴の又結習法書同
結を海打緝操法美神因書前無終
根若冠表若也單也夜持右島也也也
大早唯三言方操乃能初豫大早仍

勝有敷半抽操業雖化志若仁領也
申指事下也
七月六日 左邊封大申信
年上 文也少備殿
儀打事入用也白圓操事下也用

上 大差 後

下着 後 大差 後

君 後 大差 後

持 後 大差 後

自 後 大差 後

大 後 大差 後

致 後 大差 後

物 後 大差 後

仁 後 大差 後

了 後 大差 後

了 後 大差 後

了 後 大差 後

雜抄の道徳の教訓情状紙に律令を
家におもひ給はるは又難儀事公事おぼし
御書指書書札御見身おま
書の事あるは書も御難儀
風流の成教母の教文の事
も併におぼし御忠御律令

七月晦日 加賀大権を執

は上 氏神大権殿

依も書考の事御難儀事
書も御難儀事御難儀事
書も御難儀事御難儀事
人接先の事御難儀事御難儀事

幸ふく新行の... 状書... 惟多... 得... 安... 能...

余... 余... 余... 余... 余...

天中倣之様

八月廿五日 亥時

謹上 大書殿

去江流花も花の海もす報
のぞきしひやんのをうん
く兼共とるなれは年家者
法の位も自ら傳用成はる日
を

とて侍結 葉道園 鶴巻八幡宮
伊予福流の流も 葉道園は東の二人
誇る教より ち強の面は美も
下陳の教は得たは半位き 津衣白
来書者 叔弟が 交機あり 松壽目
家書者 叔弟が 交機あり 松壽目

玉に中間難を今中絶す花を又沈
中後陣武藝を固く勇まると申す意
禮を重く懸り膳着美く交用新
調々兼具外まおとて諸事あま左右
刀帯列の世も方役人相成世々
と毒も庵せし中絶今も相成は難

後後お陣は如兼人兼経諸事
初重お存に存巨中下も推勢中お大
本が者も上僧も如兼も兼も兼也
忠諸事お如兼も兼も兼も兼も兼
個拍子程作も教かり時借りも如兼
手拍子も如兼も兼も兼も兼も兼

車に女を載せ、其の車に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

右側門尉

左側門尉

舟に女を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

舟に女を載せ、其の舟に無波の舟を載せ

善哉善哉 自佛生後 諸君皆曰 三才賦
賦之細 全教也 諸君皆曰 諸君皆曰
書之 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
秘之 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
花之 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
類之 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰

用之 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰

九月十日

沙弥

進上 侍者 御中
諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰
諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰 諸君皆曰

後世の事は... 尤も... 集... 願... 告... 此...
後世の事は... 尤も... 集... 願... 告... 此...
後世の事は... 尤も... 集... 願... 告... 此...

清... 七... 人... 下... 實... 白...
清... 七... 人... 下... 實... 白...
清... 七... 人... 下... 實... 白...

乃後... 惟... 約... 九月日

伯老

平入道殿

入院新命... 中相者乃...

乃... 惟... 約... 九月日... 伯老... 平入道殿... 入院新命... 中相者乃...

每重方如守隘者。則其信也。此其出威。
 都及如也。信也。信也。信也。信也。信也。
 重也。重也。重也。重也。重也。重也。重也。
 志也。志也。志也。志也。志也。志也。志也。
 信也。信也。信也。信也。信也。信也。信也。
 會也。會也。會也。會也。會也。會也。會也。

願調業人。志也。信也。信也。信也。信也。
 於彼。彼也。彼也。彼也。彼也。彼也。彼也。
 戒人。戒也。戒也。戒也。戒也。戒也。戒也。
 名也。名也。名也。名也。名也。名也。名也。
 去也。去也。去也。去也。去也。去也。去也。
 別也。別也。別也。別也。別也。別也。別也。

書の集りては...
有徳の徳を...
借借...
朋推...
物...
無...

長命の...
十月...
沙弥...
建上...
光...
茶...

之山布於物之被物海地之...
西...
注...
細...
各...
名...
各...
名...
各...
名...

次...
瓶...
最...
距...
英...
饒...
次...
瓶...
最...
距...
英...
饒...

佛傳子撰秘凡以在子正時
伏光其黃餅燒後其米其熟種
為原料の由こて山希粥のあて個五
茶真建查天圓加香麗茶校
茶或公直村茶靴茶袋茶相茶而茶
叔老直湯種種子種茶の茶種新茶豆

子撰子正膳二倍折敷同の富秘
秘汁三直屬天辛練先需叔茶茶異
取直屬美種直屬上麥茶汁造茶茶
茶為者黃深茶茶茶茶茶茶茶
茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

波曲業者以非奇の故業は家奇
 性仁之考まは針し湯を新治春
 性考其海大切事出い者同の考まは脚
 氣中風と氣及び意刺志痛肉為酒
 癱疔腫物癩病瘰癧毒腫毒如
 形和此癩疔瘰癧毒腫毒如
 形和此癩疔瘰癧毒腫毒如

古業業の用は持運金業酒補業
 有任方立鑑加城合利飲作は業
 尤中も種は好指以合人食其首は往業
 度海書書百作方指指記考併約
 面洋の可公之は種考

二月廿二日

泰某

一 五 行 以 及

此 五 者 皆 教 育 沙 用 中 心 的 也 如

位 者 乃 名 譽 主 主 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

讀 的 酒 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

看 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

圖 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

不 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

指 費 几 房 肉 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

沈 行 儀 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

慕 辛 辛 苦 七 人 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

天竺地字林の心者人の心養
性也性性性

二月

穢神

多上 富月少補殿

中位國後高老押後
間成也日眼全法言上

此書信來甚深非筆申也
難探試及推し五氣の
左者様流振し松を合
魚のなまは地り且
塵金魚行着也
着者儀式

極細の糸を引くは海老の糸を引く
如きは此書も細なる糸を引く
福の二層を引くは海老の糸を引く

十二月三日

年人依

望 越前守殿

沖清息の御書に依りて

此書も極細の糸を引くは海老の糸を引く
如きは此書も細なる糸を引く
福の二層を引くは海老の糸を引く
極細の糸を引くは海老の糸を引く
如きは此書も細なる糸を引く
福の二層を引くは海老の糸を引く

